

『みんなが幸せな社会のために』

幸せはひとそれぞれですが、ひとに押し付けられず、自分のしたいことをするのが一番。もし、女だから、男だから、という理由だけで、したいことができなかつたり、特定の仕事や役割がかたよっているとしたら…。女性も男性も自分の意志で社会に参画し、やさしく支え合い、喜びも責任も分かち合う、そんな社会づくりが、みんなの幸せにつながります。

○家庭における男女共同参画

夫婦の生活時間を見ると、夫の「家事・育児・介護など」の活動を行う時間は妻に比べ極めて短くなっています。

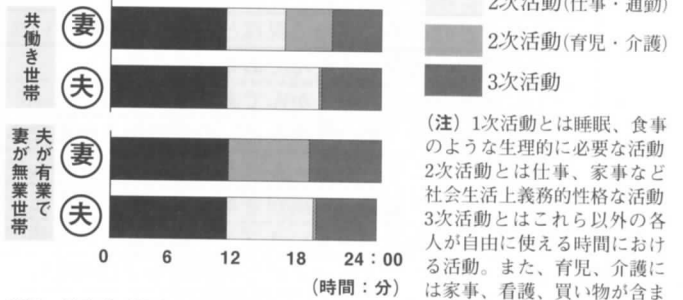
また、これは「共働き世帯」も「夫が有業で妻が無業の世帯」もほぼ等しく、夫は妻の働き方によって生活スタイルを変えないことがわかります。

「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成12年9月)によると男性が育児休業をとることについては、女性・男性ともに約7割が取った方がよいとしています。

しかしながら、実際に育児休業取得者についてみると育児休業取得者のうち男性の割合は2.4%にすぎず、配偶者が出産した者に占める育児休業者の割合は0.42%と極めて少なくなっています。

男性が家事、子育てや教育などに参画するために、夫婦間の十分な話し合いに加え、社会通念、慣習などを改めること、労働時間の短縮や休暇制度の普及などが重要です。

○夫婦の生活時間



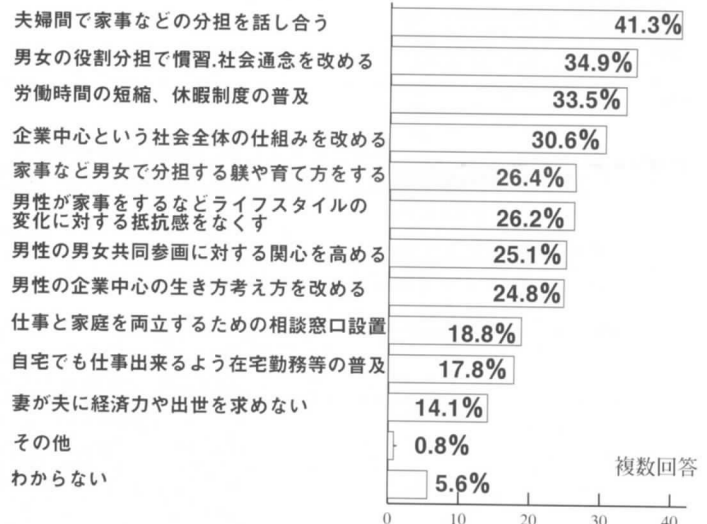
資料：総務庁「社会生活基本調査」(平成8年度)

○育児休業取得者割合

育児休業取得者の男女比			出産者に占める育児休業者の割合	配偶者が出産した者に占める育児休業者の割合
計	女性	男性		
100.0	97.6	2.4	56.4	0.42

資料：厚生労働省「女性雇用管理基本調査」(平成11年度)

○男性が家事、子育てや教育などに参画するために必要なこと



資料：「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成12年9月)
—男性のライフスタイルを中心に—

